

12) PMD患者の至適体位に関する研究、(障害度の判定標準についての検討成績

弘前大学医学部

木村 恒

(協力施設)

八雲 岩木 西多賀 下志津

宇多野 東埼玉 松江 原

徳島 西別府

進行性筋ジストロフィー患者(以下PMDと略)の至適体位を推定するのに、障害度、肺機能、血清CPK活性値等と肥瘦度の関係から検討したところ年令別平均体位の+10%~20%の間にあると考えられた。

今回はPMD施設の協力を得て過去5ヶ年間の経時的臨床検査成績を統計処理して、医療関係者が本症患者の生活指導、健康管理、機能訓練などをおこなうのに必要な簡単で実用的病状把握の指標について検討を試みたのでその結果を報告する。

<方法>

1. 対象者はPMD施設のうち昭和40年初期に開設された10施設に長期間(5年以上)入院しているDuchenne型、男子、延836例である。
2. 測定項目は、体重、肺活量、血清クレアチン・ホスホキナーゼ活性値、障害度、血色素量、血清総蛋白量である。昭和46年から昭和50年に各施設で測定された資料を使用し、季節差の影響を少なくする意味で1例ごとに各検査項目を春、夏、秋、冬を算術平均してから統計処理をした。

<結果と考察>

1. 年令別動向をみると体重では、13才の平均31Kgで発育が停止し、変異係数は6才から11才にかけて著しく増加する。これはこの時期に肥満やい瘦が急増することを示唆していると考えられる。肺活量は15才が最高でその後むしろ低下しているが変異係数は増加が認められた。CPK活性値は10才頃までに著しい低下がみられ、11才から15才にかけてはゆるやかな低下、16才以降の変動はわずかであった。変異係数は若年層(10才頃まで)の方が大であった。障害度は10~11才に急激に進行し11~12才で大半が歩行不能に陥り、その後の進行は緩慢である。変異係数は若年の方が大きく、5~6才頃からの早期治療管理が重要であることを物語っていると考えられる。血色素量は10才までは低く、11才から15才にかけて明らかに増加し、16才以降一定となり、CPK活性値の動向と逆の変化がみられた。貧血者は全体の20.8%と高率であった。血清総蛋白量には明らかな変化は認められなかった。これらの成績からD型患者の病状は確実に進行しているが、詳細に検討すると、ある時期に著しく個人差が大となる。このことから治療食や合併症の予防など患者の健康管理のあり方を再検討する必要を痛感する。
2. 障害度の最も進行する季節は冬であり次いで夏であった。これは冬と夏休みの患者の一時帰宅や

温湿度変化に対する適応能力が障害度の進行にしたがって低下することに起因するものと考える。

3. Duchenne型、男子 836 例について、10才以下、11才～15才、16才以上の臨床検査成績を、各々平均値と平均値 $-\alpha$ の値としてTable 1、に示した。この各検査の平均値 $-\sigma$ の値が日常、患者の健康管理のための簡単なチェックの指標として利用できるものと考えられる。他のタイプについても例数を増やして検討する予定である。

Table 1 physiological examination

age	-10			11 - 15			16 -		
	case	m	m- σ	case	m	m- σ	case	m	m- σ
weight (kg)	258	23.8	17.4	573	30.0	21.8	268	31.9	23.6
vital capacity (ml)	211	1120	780	464	1286	804	176	1229	696
CPK (u/ml)	211	729	256	514	349	133	273	214	108
stage (10)	246	4.2	6.1	563	6.3	7.7	149	7.0	8.9
hemoglobin (g/dl)	154	12.3	11.5	293	13.0	11.8	159	14.0	12.9
serum protein (g/dl)	146	6.7	6.2	341	6.8	6.4	190	7.0	6.6

(Duchenne males 836 case)

B) PMD患者の便秘の発生頻度と食餌療法の試み

弘前大学医学部

木村 恒 森山 武雄

昭和49年度に全国の在宅患者1,000名の生活実態調査をした際、便秘するPMD患者が全体の30%もいることが明らかとなった。

本症患者のように日常の食事摂取量の少ない上に、便秘による食欲の低下は、患者の栄養状態に悪影響を及ぼすであろうことは必至と考えられる。

今回はPMD施設における本症患者の便秘の実態を把握するために、国立岩木療養所に入所している患者を対象とし便秘の発生頻度とその起源を調べるとともに、便秘する患者の食事改善をも検討したので報告する。

<方 法>

1. 対象者は国立岩木療養所に入所しているPMD患者51名である。(D型33例(64.7%)、LG 6例(11.8%)、FSH 1例(2.0%)、不明5例(9.8%)、その他6例(11.8%))
2. 対象者全員に対して便通の状態に関する19項目の調査をした。
3. 便秘改善食の被験者は、MgO投与をしているD型男子10～11才の3名と便通の不規則なD型男

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

進行性筋ジストロフィー患者(以下 PMD と略)の至適体位を推定するのに、障害度、肺機能、血清 CPK 活性値等と肥瘦度の関係から検討したところ年齢別平均本位の+10% ~ 20%の間にあると考えた。

今回は PMD 施設の協力を得て過去 5 ケ年間の経時的臨床検査成績を統計処理して、医療関係者が本症患者の生活指導、健康管理、機能訓練などをおこなうのに必要な簡単で実用的病状把握の指標について検討を試みたのでその結果を報告する。